

読売歌壇

小池 光選

右へいせ左かうやのしるべ立つ大和街道に夕暮れがくる

【評】「いせ」は伊勢、「かうや」は高野。今に残る江戸時代の古い道標には、いい知れぬ味があるもの。どっと夕闇がやってきて、すべては遠い歴史の闇のなかに。

昭和五年五月五日に誕生の亡くなりし妻にかしはもち供ふ

【評】こういうふしぎな日付に生まれた妻であつた。命日の仏壇に亡妻が好きだった柏餅を供える。長い長いとしつきを共に暮らした戦友のために。

アルバムを整理する手が未だ子の吾だけこの写真で止まる

【評】古いアルバムを整理して、出てきたむかしむかしの家族写真に見入る。父・母・兄、姉すべてもう世にいない。万感迫る。

遠くから祭囃子が聞こえる背丈を刻んだ柱を見れば

萬風に万の鱗の輝ひて鯉のぼりもまた命を謳歌す

西からの風に何やら勇み立つ 遙か西にはふるさとの伊予

知り合いの古本屋にて一時間過ぎたのちに漱石を賣う

少年は両手で祖母の腰を押し夏風渡る石段登る

五月になりいちじくの葉が見えはじむ特別支援学校裏に

その話のうも聞いたと言いつながら中一の孫は相つちを打つ

大東市 若槻 豊彦
町田市 永井 悦子
相原 洋次
北九州市 宝満 光保
丸亀市 市橋 康子
仙台市 三角 清造
奈良県 松本 悦子

栗木 京子選

「米」といふ活字足りなくならないか新聞記事はアメリカとコメ

【評】米国の大統領の動きや国産米の値上りを報じる記事。どちらか暗いが、米大リーグでの日本人選手の活躍を伝える記事は紙面を明るませる。上旬が機知に富む。

書き心地良きボールペン待ちくつき結句の七語浮びくるまで

【評】いったんボールペンを置いて、短歌の仕上げをした。思案する作者にペンが力を送ってくれているようだ。作歌には筆記用具も大切である。「待ちくつき」があたりか。

雨風の音に目覚めて外見れば咲きし牡丹に傘立てる夫

【評】笠地蔵の昔話を思い出した。笠ならぬ傘を牡丹に差し掛ける夫。心配で寝ていられたなかったのだから。美しい場面である。

平飼いの卵を割れば黄身が濃い御飯にかければ春が動き出す

播但線車窓に次ぎ山桜雪国出できしわれには眩し

折れてなお皮一枚でふらさがり実をふくらませる梅の大枝

満開のヒメシャリンバイに降る雨が花散る時を先延ばしする

薄煙る渡島を望む故郷の浜の千鳥の鳴く声寂し

光浴する若木のような青年と学友になり月日はなやぐ

娘にも妻にもいと呼べぬこの不条理のかしく哀し

一宮市 小島 順造
鶴岡市 佐藤 繁子
川口由美子
中津市 今吉みなみ
千葉市 秋田みのる
横濱市 北見 美保
東京都 小松 貴志

俵 万智選

せつげんのように心が摩耗して手だけこんなにきれいな五月

【評】何かをきれいにしようとして頑張る。すると心が摩耗してしまう。手洗いのせつげんが、手をきれいにしつつすり減っていく様子を、心と重ね合わせた比喩がみごと。明るい結句に、第四句の「だけ」が重く響く。

手書き風のフォントが空を走り出すような軽さで好きと言えたら

【評】自分らしく、軽やかに気持ちを伝えたい。大空に描かれる「好き」の文字を想像した。書き言葉の時代であることも感じる一首。太陽の匂いのシャツを取り込んでこつとこつとん午後の居眠り

【評】昼寝をこらえたオノマトペ「こつとん」が、楽しい。コトソン(木綿)との掛け言葉になっているところが工夫だ。

風向きの変はりてジャスミン匂ひくる友の離婚を人伝に聞く

珈琲とあんこがおいしい感じなのは豆同土だからなんじゃないの

良く喋る雪女七人に囲まれて耳遠きわはただに頷く

フライパンのまま出された焼きそばの即席の愛がいとくもある

メルカリの緩衝材が地方紙で知らぬ世界も届けしてくれた

オルガンの蓋に手をかけ夕焼けを閉じようとして恋に気付いた

A1は読むことなく答えおき苦手な人との関わり方を

市原市 井原 茂明
東京都 葉山 あも
鹿嶋市 加津牟根夫
大和郡山市 大津 穂波
高崎市 杉橋 慶風
宇部市 常田 瑛子
大和郡山市 本田 岳

黒瀬 珂瀾選

十人のライングループつぎつぎと桜の写真掲げて満開

【評】まさに現代のコミュニケーションですね。みんなに見てほしいと、ラインのメンバーがどんどん自慢の画像をアップする。小さなスマホの中で、各地の桜が満開です。全身に撥水加工してフェイクニュースを拒みされるか

【評】フェイクニュースが飛び交い、それを利用する者も出る時世。真偽を見極める力が欲しいものです。といって、歌のように簡単に身に着くものか、これもフェイクかも?

「さん」付けで呼ばれるなんていつ以来 変わる人屋にふきのとう咲く 山形市 内牧 白岳

【評】刑務所では昨年から受刑者を「さん」付けで呼ぶように改革された。外の社会と同じく刑務所も変化し、また四季も移りゆく。チューリップ十万本を見て帰る育てし庭の十本を愛う

老いるほど楽しみ増せば二十歳にて征しままなる兄上に謝す

追いつけぬこと増えくるが哀しけり五行日記がときをり欠ける

海までの道の途中で君がいる羽根を畳んだ蝶のふりして

リハビリの途次拝みぬし道祖神なくなりてごみ捨て場となりぬ

大谷の子供の活躍見るまでは元気でいたいと我が歳増う

引き返すことも大事と言ふけれどわたしは冬でもう卒業だよ

平塚市 原 道雄
成田市 神郡 一成
東京都 大村 森美
大網白里市 滝沢ゆき子
船橋市 米山 正久
西条市 吉岡サツキ
枚方市 上野 善則